

東日本大震災を忘れないで。7月8～12日に岩手県釜石市を訪れ、傾聴ボランティアを行った室蘭・海星学院高校(香川謙二校長)の生徒6人が、東北で目にした物や感じたことなどをつづったポスターを製作した。ポスターは今年も道南バスを走る道南バスの約80台の車内に掲示され、市民の目に触れる。(石川綾子)

ユネスコスクールの一環として取り組んでいる東北支援プロジェクト。生徒らは31日、道南バス室蘭東営業所を訪れ、ポスター360枚を届けた。受け取った菊地伸行所長は「テレビで見ただけでは被災地の状況が分からない。ポスターを見て感動しました。バスは毎日、学生や主婦など幅広い年齢層の方が利用する。多くの利用客に見ていただきたい」と話していた。

ポスターは1人1種類ずつ製作。仮設住宅や津波にのまれ壊れかけた建物など釜石市内で撮影した写真を背景に、「二日一日を大切にしている人にお世話になった。協力できることはあるはず」「家族を大切にしていきたい。釜石の人に出会い、この建物を見て、そう思った」などのメッセージが添えられ、それぞれの思いが込められている。

震災 風化させない

室蘭・海星高生ポスター製作



道南バスに掲示されるポスターを製作した生徒たち

今年も道南バスに掲示